

冠婚葬祭と漆

A2201431 芳賀 祥子

研究の背景

冠婚葬祭とは、人が生まれてから死ぬまで、および死後に家族や親族の間で行われる行事一般のことを指す。日本に昔からある伝統行事だが、近年、費用や手間が掛かる等の理由で省略化されつつある。

また「ハレ」と「ケ」という概念にも目を向けてみると、現代人は科学技術や利便性の発達など様々な要因で「ハレ」と「ケ」の区別が薄らいでいる。

私は、簡易化・省略化されつつある伝統的行事の冠婚葬祭と、同じく日本の伝統工芸である漆を組み合わせることでもう一度伝統を見直し、親密なものにできないだろうか考えた。そこで冠婚葬祭のみで利用する漆の装身具とそれを保管し、子孫へと受け継ぐための箱の制作を提案することにした。伝統行事や伝統工芸を身近なものにしていくには、実際に自分自身が経験することが一番である。また、その経験を子孫へ伝えていくことで、人が生まれ、死んでいく過程の中で永遠性を感じることができるのではないだろうか考えた。

研究の目的

- ✚ 冠婚葬祭の場のみ身につける装身具（帯留め/髪留め/ブローチ）と保管する箱を用いて、「ハレ」と「ケ」の区別をする。
- ✚ 伝統行事をもっと親密なものにする。

研究制作のプロセス

【帯留め】

- ① 素地設計（真鍮）
- ② 焼付け
- ③ 下塗り
- ④ 中塗り
- ⑤ 加飾（金粉）
- ⑥ 上塗り
- ⑦ 仕上げ

【髪留め】

- ①素地設計（真鍮）
- ②焼付け
- ③下塗り
- ④中塗り
- ⑤加飾（螺鈿）
- ⑥上塗り
- ⑦仕上げ

【ブローチ】

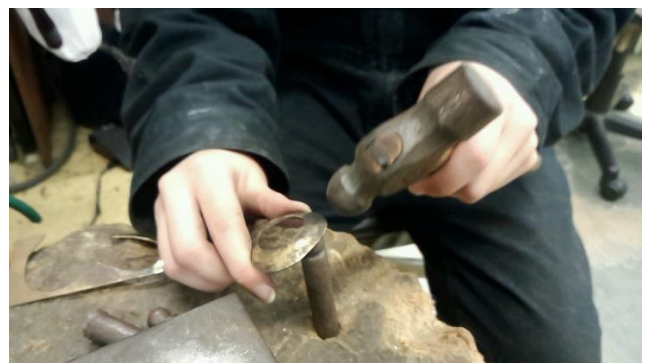
- ①素地設計（真鍮）
- ②焼付け
- ③下塗り
- ④中塗り
- ⑤加飾（蒔絵・銀粉）
- ⑥上塗り
- ⑦仕上げ

【箱】

- ①木地設計
- ②木固め
- ③布着せ
- ④蒔地（3回）
- ⑤下塗り
- ⑥加飾（螺鈿）
- ⑦中塗り
- ⑧上塗り
- ⑨仕上げ

成果物(完成作品)

【帯留め/髪留め/ブローチの素地設計】



【帯留め】

- 焼付け



- 塗り



【髪留め】

- 焼付け



- 塗り



【ブローチ】

- 焼付け



- 塗り



【箱】

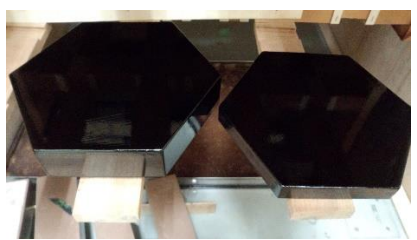
- 木地設計



- 蒔地



- 塗り



考察

伝統行事を身近にするための提案についてまず思い浮かべたのは、「身なりから」である。

それぞれの行事の内容が違うように服装もまた行事ごとによって異なる。それと同じように漆の装身具も行事ごとに使い分ける事でその行事の意味や歴史について考えるきっかけになるのではと考えた。自分が女性であること、またアクセサリーを身につける機会の多いことから女性をターゲットに制作を進めていったが、男性にも冠婚葬祭を意識して欲しい。

「ハレ」と「ケ」の区別がつけにくくなってしまった現代で、少しでも「今日は特別な日」であることの象徴になるものの存在を作ることが出来たのではないだろうか。

自分が生まれ、これらの装身具と箱を受け継ぎ、自分が死んだ後も、次世代へと受け継いでいく。この子孫との繋がりの方が繰り返されればされるほど、永遠性が強まり、冠婚葬祭や漆の価値が高まっていくことを願っている。